

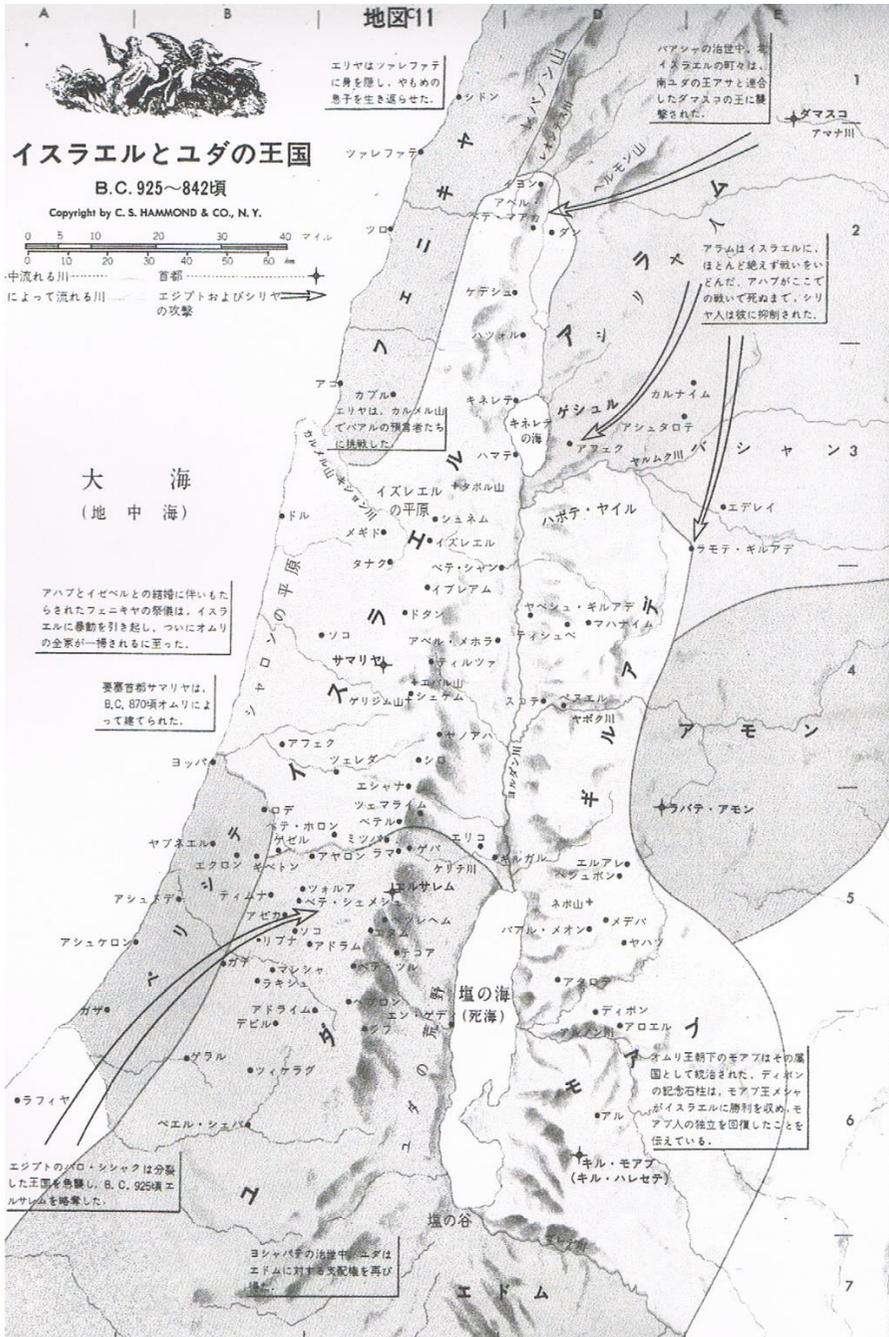
先週は8章16~29節を通して、南王国ユダのヨラム王、アハズヤ王の時代の国と王の信仰をみました。ヨラム王の不信仰にもかかわらず、神はユダを滅ばされなかったのは、ダビデとの契約を忘れず、ご恩寵のうちにおいてくださったことをみました。今朝は北王国イスラエルの王ヨラムの時代です。

1. エリシャの若いともがら (1~3節)

- ①腰に帯を (1) 「預言者エリシャは預言者のともがらのひとりと呼んで言った。『腰に帯を引き締め、手にこの油のつぼを持って、ラモテ・ギルアデに行きなさい。』」6章には預言者のともがらの要請によって、ヨルダン川近くの木を切り出して、預言者仲間の場所のことが記されています。そのような預言者集団の若者の一人を呼んで、エリシャは言ったのです。『霊的心構えを忘れずに、手には油の壺を持って、ラモテ・ギルアデに行きなさい』という命令を告げました。
- ②油を注ぎ (2~3) 『そこに行ったら、ニムシの子ヨシャパテの子エフーを見つけ、家に入って、その同僚たちの中から彼を立たせ、奥の間に連れて行き油のつぼを取って、彼の頭の上に油を注いで言いなさい。(主はこう仰せられる。わたしはあなたに油を注いでイスラエルの王とする) それから、戸をあけて、ぐずぐずしていないで逃げなさい。』ラモテ・ギルアデに行ったら、エフーを見つけよというのです。彼の祖父はニムシ、父はヨシャパテ。王の家柄ではありません。そのエフーを立たせて、奥の部屋に連れて行くと具体的な指示が出されました。そこで、油の壺を取り、彼の頭に油を注いだ上で告げよというのです。それは「主は仰せられる。わたしはあなたに油を注いで、イスラエルの王とする」という驚くべき内容でした。さらに、ことをなしたら、ぐずぐずしていないでそこにそこから立ちされというものでした。いったい、どういうことなのでしょう。
- ③エフーを見つけ (4~5) 「そこで、その若い者、預言者に仕える若い者は、ラモテ・ギルアデに行った。彼が来てみると、ちょうど、将校たちが会議中であった。彼は言った。『隊長。あなたに申し上げることがあります。』エフーは言った。『このわれわれのうちの誰にか。』若い者は、『隊長。あなたにです。』と答えた。」エリシャの命を受けて、若い預言者は、ラモテ・ギルアデに行きました。イスラエル軍の会議がなされていました。若い預言者は言いました。『隊長、申し上げます』。するとエフーは『同じ立場の者が何人かいるが、誰に向かって言っているのだ』とたずねます。若い者は、迷わず、『あなたにです』と応えました。

2. 油注ぎと命令 (6~10節)

- ①エフーに油を注ぎ (6) 「エフーは立って、家に入った。そこで若い者は油をエフーの頭に注いで言った。『イスラエルの神、主は、こう仰せられる。(わたしはあなたに油を注いで、主の民イスラエルの王とする)』」エフーは促されて、奥の間に行きました。若い預言者は時を



移さず、エフーの頭に油を注ぎました。そして、重要なメッセージが伝えました。『イスラエルの神は、あなたを主の民イスラエルの王とする』。

- ②アハブ家への裁き (7~8) 『あなたは、主君アハブの家の者を打ち殺さなければならない。こうしてわたしは、わたしのしもべである預言者たちの血、イゼベルによって流された主のすべてのしもべたちの血の復讐をする。それでアハブの家はことごとく滅びうせる。わたしは、アハブに属する小わっぱから奴隷や自由の者に至るまでを、イスラエルで断ち滅ぼし』メッセージは続きます。エフーは王になった時には、①アハブの家の者を打ち殺す ②その結果、預言者たちの血、イゼベルによって流されたしもべ達の血の復讐をする。③アハブ家の者はすべて滅ぼされなければならない。主の裁きがなされんとしていたのです。
- ③イゼベルも (9~10) 『アハブの家をネバテの子ヤロブアムの家のようにし、アヒヤの子バシャの家のようにする。犬がイズレエルの地所でイゼベルを食らい、だれも彼女を葬る者がいない。』こう言って彼は戸をあけて逃げた。』メッセージはさらに続きます。アハブの家の将来についての預言です。アハブの家は、偶像礼拝者ヤロブアムやバシャに対する審判と同じようになるというものでした。また、アハブの妻イゼベルについても、犬がイゼベルを食い、葬りはされず、人々から見向きもされないというものでした。

3. エフーの王への道 (11~13 節)

- ①何のために (11) 『エフーが彼の主君の家来たちのところに出て来ると、ひとりが彼に尋ねた。『何事もなかったのですか。あの気の狂った者は何のために来たのですか。』すると、エフーは彼らに答えた。『あなたがたは、あの男も、あの男の言ったことも知っているはずだ。』。イスラエルのヨラム王の家来の一人が、エリシャの使いの若い者の来訪理由を尋ねました。『いったい何のためにあの気の狂った男は来たのですか。』すると、エフーは少し答えをぼかします。『お前たちは、あの男の言ったことを知っているではないか。』
- ②若者の言った事 (12) 『彼らは言った。『あなたは偽っている。われわれに教えてくれ。』そこで、彼は答えた。『あの男は私にこんなことを言った。(主はこう仰せられる。わたしはあなたに油を注いでイスラエルの王とする。) と』』すると彼らは、自分達は聞いていないので、事実を教えてもらいたいと問いたします。ここまで来ると、エフーも黙っているわけにはいきません。つまり、若者は主の仰せとして、エフーに油を注ぎ、イスラエルの王とすると断言したという重大発表をしました。
- ③エフーは王だ (13) 『すると、彼らは大急ぎで、みな自分の上着を脱ぎ、入口の階段の彼の足もとに敷き、角笛を吹き鳴らして、『エフーは王である』と言った。』すると、周りの者たちはヨラム王の家臣ですが、威儀を正し、上着を脱ぎ、階段の足許に王の歩く道を作るかのようにして角笛を鳴らし、エフーが王になると宣言したのです。

《結論》「エフー」という新改訳の表記は、新共同訳や聖書協会共同訳では「イエフ」となり、口語訳や文語訳では「エヒウ」となります。似ている面もありますが、日本語の発音としては別人のようですね。かといって、それぞれの翻訳を統一することもできません。「イエス」と「イエズス」や「ペテロ」と「ペトロ」といった違いなら、そのままでも想像できますが、「エフー」の場合は難しいですね。ここでは新改訳で読んでいますから、当然ながら「エフー」という表記で学んでいきます。9~10章にかけて、彼のことが出て来るのですから、それ相当のページが、彼関連の事を記しています。

それにしても、エフーは王の家柄ではないのです。そんな彼に思いもよらない導きと使命が授けられたのです。間違いやすいので確認すれば、彼がおかれていたのは、北王国イスラエルです。南北に分裂した、ヤロブアムの時代からこの国は不信仰が始まりました。バアルなどの偶像礼拝がまかり通っていました。アハブ王の行状については、列王記の学びにおいてもつぶさに見ました。その妻がバアル信仰を持ちこんだともいえます。そして、その不信仰はヨラム王にも及んでいました。主なる神はそんな家系のあり方を変えるのは、全く違う筋から選ぶしかないと思われたのかもしれませんが。

かといって、このエフーという人物が特別の才能、霊的資質、人格的高邁さといったものがあつたわけでもなさそうです。これがダビデともなれば、羊飼いをしていたものが、外見、霊的資質、音楽や文学的才能、知恵など、誰が考えても王として導かれるのに相応しい人物でした。ところがエフーの場合には、特別の資質があまり見いだせないのです。しかし、神はそんな彼を選ばれたのです。それも、若い預言者を用いて、油注ぎが行なわれて、王に立てられていくのです。油注ぎがされた例は多くありません、サウル王、ダビデ王といった人々ぐらいで少ないのです。異例の事がここに行われているのです。

私たち自身も、何か特別なものがあつたから、主に導かれたわけではありません。「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。」(ヨハネの福音書 15:16)とありますが、一方的な主の恵みによって私たちも救いへと招き入れられたのです。自らの罪に気づかされ、イエス・キリストの十字架と復活のゆえの贖いを受け入れて、罪の告白をして赦されてきた者たちです。でもそれらのすべては、主のご恩寵です。「したがって、事は人間の願いや努力によるのではなく、あわれんでくださる神によるのです」(ローマ 9:16)とあるように、憐み深い主の御手に導かれて、私たちは救われてきたのです。私たちの側に、特別のものがあつたから救われたのではなく、ただ主の憐みによるのです。

また、エフーにはアハブの家の不信仰の掃除という任務が与えられましたが、私たちにもそれぞれの務めが与えられています。それが何らかの能力や賜物を用いてのこともありましょう。しかし、特別の才能がなくても、主が私たちを用いてくださいます。私たちを選んでくださった主は、私たちに働きも与えてくださいます。一人一人に、主からの務めがあります。主の助けをいただき、祈りつつ、謙遜にその務めを全うさせていただきます。